

“コロナ禍”を克服して どんな“かがや”にしたいですか・・・

「コロナ禍」多くの矛盾・課題が目の前にあぶり出されました。ポストコロナはこれまでのままではだめです。新しい社会の仕組みが必要なのです。それは……？

「コロナ対策はどうなっているのか?」「いつでもどこでも出来る PCR 検査体制を作るべき」「学校給食の無償化を実現したいね」「なし・大根の都市農業を発展させたいが・・・」「医療機関は大丈夫?小児科は」「寝たきりにならない介護は出来ないだろうか」「障がいのある人もない人も“ありのままに”共に暮らす地域社会を創ろう」「水害の発生しない街にしたい」「市民と市長のタウンミーティング実施して欲しい」「市民の声の通る市政の仕組みを作るべき」「地域包括ケアシステムどうなってるの?」「緑が減ってるなあ」「再生可能エネルギーの街づくりを」「危ない道路で歩けない」・・・いろいろな疑問と不満そして希望する街の姿が市民から語られています。



鎌ヶ谷市長は 11 万人市民の命と健康そして生活を守り、文化的で健康的な生活が出来るような街づくりをするため 11 万市民と一緒にその先頭に立ってがんばるのがその役目。

では、今私たちがコロナ禍下、鎌ヶ谷市でやらなければならないことは何なのでしょう。

鎌ヶ谷市はいま『総合基本計画前期基本計画第一次実施計画(2021～2026)』、『第三次男女共同参画(かがやきプラン)』『第三次いきいきプラン健康かがや 21』の策定中です。私たち市民の思いから一緒に考えていきましょう。

「**第一次実施計画**」では“新京成高架下の、空き地の有効利用。企業誘致で経済成長。北千葉道路とその経済効果”が検討され、新鎌ヶ谷土地区画整理区域に接する西側地区についての市街地整備など“未来への投資となるような街づくりの推進”が語られています。三大目標のあとふたつは“行財政改革”と“持続可能な行政運営”です。

これらも大事なことです。でもコロナ禍を克服するためにもまずしなければならないことは①コロナ対策②自然環境の再生と共生(温暖化対策と再生可能エネルギーの街)③自己責任でなく“公”の役割を復権し“悲しみ・苦しみを分かち合う支えあいの社会”の仕組みを鎌ヶ谷に作っていくことなのではないだろうか。医療・看護・介護・福祉・保育・教育・居住・農業など 21 世紀の分かち合いのビジョンで 11 万人鎌ヶ谷市民一人一人に寄り添うウエルフェア(福祉)の街づくりを目指していくべきです。

「**男女共同参画**」ではこれまでの成果として鎌ヶ谷市の女性管理職比率が 21.8%で県内 37 市中 1 位と語られていますが、《男女平等と思う人の割合》のアンケート結果で国・県平均よりも平等でないと感じる分野として「家庭生活」が挙げられていま

す。国平均では 45.5%の人が家庭では平等と感じているが鎌ヶ谷市では 29%しかいません。家庭内では女性が差別されている状況があるのです。

それなのになんか、その原因と言うか「夫は外で働き妻は家庭を守るべき」に賛成の人は鎌ヶ谷市では全体で 35.3%と、多くの方に“固定的性別役割分担意識”が根強く残っていることが確認されています。

どう解決するのか？計画の中では「広報」「啓発」「教育」「意識の見直し」が提言されているだけで女性差別の本丸である女性の労働環境については触れられていません。男性より女性の賃金が低い(100対74.3)理由、非正規公務員の70%が女性であり非正規公務員の低賃金の問題から男女平等を考える視点が必要です。「同一価値労働同一賃金(職務評価)」が女性の低賃金・労働環境の是正の運動の中から出てきたことから働く女性の賃金アップを具体的に考えるのも男女平等への道です。

“選択的夫婦別姓”についても触れられていないのはいかなものか・・・と思われました。

又 LGBT の方々への対応策が具体的に出されていないのも残念です。「性の多様性へのアンケート」で「男性」「女性」「どちらでもない」の回答で 1176 人中 20 人が「どちらでもない」です。「正しい認識や啓発」だけでなくパートナーシップ条例のような形で具体的に施策を展開されるべきだと思います。



「いきいきプラン」の中で“自殺”について検証されています。

2014 年～2018 年 5 年間の鎌ヶ谷市の自殺率(10 万人比)は 18.8 人(男性 25.0 人、女性 12.7 人)で全国・千葉県よりも多いです。特に女性 12.7 人は全国の 10.4 人に比べて 20%も多い状況です。本市の自殺の特徴第一位は“女性 40～59 歳無職同居”からも 20%女性が多い意味を汲み取れるのでは。

“ゲートキーパー”や“自殺にいたる複数の因子(4 つぐらい)”のことの必要性も大切さもわかっているのですからもう一歩施策の展開をすべきだと思います。

鎌ヶ谷市での“再生可能エネルギーの街づくり”も重要な課題です。

異常気象・地球温暖化の原因は人間の活動による CO2 等の温暖化ガスの排出とされています。日本政府も 2050 年までに排出量ゼロを実現すると目標を設定しました。グリーンエネルギーをどのように得たらよいか？原発は福島第一原発事故から安全とはいえません。脱原発のエネルギー政策が必要です。

鎌ヶ谷市としても具体的にどのようにして CO2 を削減するのか考えなくてはなりません。市役所の温暖化効果ガスの排出量の 75～68%が電気使用です。太陽光・小水力・風力など再生エネルギーの電気を使うことで大きく減量します。太陽光の自治体・市民発電を考えていきましょう。まず最初に市役所～新鎌ヶ谷地区をモデル地区として「再生可能エネルギーの街鎌ヶ谷」を創っていきましょう。

「民主主義と自治そして平和主義」ふじしろ政夫 047-445-9144

*活動報告 HP に掲載「いい鎌ヶ谷ふじしろ政夫」でアクセスできます。